

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(朝明高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		「社会に貢献できる人間へー自分づくりの三年間ー」をテーマとして、「時を守り、場を清め、礼を正す」の教育指針のもと、生徒が成長する学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	・「社会人基礎力」を身につけ、礼儀を重んじ、社会規範の遵守・挨拶の励行・正しい言葉遣いができている。 ・目標を持って学校生活を送ることができ、進路実現を果たしている。 ・学習習慣が定着し、基礎的・基本的な知識・技能とその活用能力を身につけている。 ・他者とコミュニケーションを図り、協働する力が具わっている。 ・自己肯定感や自尊感情を持ち、人権尊重の意識や態度を身につけ、自分と他者の命と人権を大切にする「豊かな心」を具えている。 ・地域福祉に貢献できる知識・技能と行動力を身につけている。(ふくし科)
	ありたい教職員の姿	・生徒の基礎学力の定着及び学習意欲の向上を図るため、ICTを活用して主体的・対話的で深い学びを目指した「授業改善」に取り組んでいる。 ・各教科や分掌において、「社会人基礎力」を育むため、「考える力」や「判断する力」、「表現する力」など具体的な教育的働きかけを行っている。 ・教育相談及び特別支援教育等の知識とスキルをもとに、互いに協働して個に応じた指導と支援を行うことができる。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	生徒 自己肯定感や自尊感情が育まれ、自らの成長を実感して、進路希望が実現する。 保護者 安全・安心して学べる学校であり、心身ともに健全な子どもの育成が図られている。 地域社会 卒業までの粘り強い支援と、卒業後、社会を生き抜く力をつけている。 進路先 社会人基礎力をはじめとする人間力の向上に係る教育が行われている。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 ・小中学校:発達段階に応じた学びの連携と協力。 ・保護者:学ぶ力・心の力・体の力の育成と希望する進路の実現。 ・地域社会:地域経済や自治活動の中心となる人材の育成。 ・卒業生:母校に誇りを持ち、同窓生としての情報交換の場。	連携する相手への要望・期待 ・小中学校:継続的・体系的なキャリア教育に係る連携。 ・保護者:社会の一構成員としての自覚確立のための連携。 ・地域社会:生徒支援及び社会人マナー向上の支援。 ・卒業生:在校生の進路実現、学校の教育環境の整備に対する情報提供や人的・経済的な支援。
(3)前年度の学校関係者評価など	・社会人基礎力の向上に向けての取組を推進しており、礼儀を重んじ、社会規範の順守・挨拶の励行・正しい言葉遣いの指導が浸透しており、生徒の挨拶や身だしなみも気持ちよく、朝明高校の評価は向上してきている。引き続き継続的に取り組んでいただきたい。 ・ふくし科の「手話歌」披露は地域のまちづくりへの参画であり、地域の学校としての存在感を高める良い機会である。今後は、地域福祉に貢献できる知識・技能及び行動力を身につけて「社会に貢献できる人」の育成に向けて、継続的に取り組んでいただきたい。 ・福祉の仕事内容に関心を持ってもらえるよう、実習やボランティアに参加することを継続し、福祉職の待遇面を知って就職した後のことを具体的に想像できるようにして、仕事としての福祉に対するイメージを具体的にすることも必要。 ・自転車について、飛び出しや右側通行などの危ない場面もあることから、交通ルールについての教育が必要である。 ・中学生やその保護者に「朝明高校が良い学校である。」という事が伝わっていないことが非常に残念な思いである。引き続き情報発信が必要。	

(4)現状と課題	教育活動	・基本的な生活習慣・挨拶が身につけている生徒が増えてきている。 ・自己肯定感や自尊感情を高め、自分の生き方や目標を考えられる生徒となるよう働きかけが必要である。 ・基礎学力が十分に身につけていない生徒へ確かな学力を育む。 ・主体的・対話的で深い学びを目指して授業力の向上を図るとともに、ICT 活用の推進や観点別評価など新しい学習指導要領に基づく教育活動を推進する必要がある。
	学校運営等	・各生徒の良さを伸ばし、苦手意識を克服できるよう支援する体制が整っている。 ・生徒や保護者、地域などの意見や要望を把握し、教員同士が対話を進めながら問題解決に向けての行動を組織的に行うことができる。さらに成果をあげるために、「情報の共有」や「経験の伝承」を進めていくための場を充実させる必要がある。 ・保護者や地域と一層の連携を図るとともに、学校の様々な取組の様子や生徒の活動の様子など、朝明高校の魅力を外部に積極的に発信する必要がある。 ・教員数の減少に見合った学年・分掌業務に見直して働き方改革を進めていく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・社会に貢献できる人間となるため、基礎的な知識や思考力・判断力、行動力の育成に向けた教育活動を実施します。 ・地元企業の協力で勤労観や職業観を身につけるインターンシップを2年生で実施します。 ・全生徒が自己肯定感や自尊感情を高められるよう教育活動全体を通じて指導をします。 ・地域の事業所等と連携した介護実習の実施および福祉や介護について専門的な知識やスキルを身につけます。(ふくし科) ・介護福祉コース選択者全員が介護福祉士国家資格取得を目指します。(ふくし科)
学校運営等	・教師自身が自己の教育力の向上を目指し、授業研究・公開授業・指導法の改善を積極的に行い、学校組織としての教育力を高められるよう「授業改善」の取組を進める。 ・規範意識の醸成、基本的な生活習慣の確立を基盤とした生徒の指導・支援を徹底し、地域から信頼される学校づくりを推進する。 ・教職員が「やりがい」や「満足感」を感じながら生き生きと働くことができるよう、「働き方改革」の取組を推進する。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・朝明高校の3年間で、部活動や商業資格取得、上級学校を目指す意欲など明確な目標をもって取り組み、自分づくりを行い人間的に成長しようと思っている。 ・朝明高校で基礎学力から学びなおしをして、社会で通用する知識と教養、礼儀やコミュニケーション力を身につけようと考えている。 ・福祉の知識と実践力を身につけて、福祉施設や身近な人々の役に立とうとする意欲を持っている。(ふくし科)
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

(4)異校種や地域との交流を実施、ふくし科の魅力や福祉について伝える。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
----	---------	----	----

【学習指導】	(1)わかる授業の徹底、教員の授業力の向上に向けた取組の推進 ・授業見学週間の実施と振り返りの実施。 ・すべての教員が一人一台端末やICTを活用した教育活動の推進に取り組む。 (2)安心して学べるクラス作りの構築 ・授業に向かう環境づくりの徹底 ・面談週間の設置等、生徒へのきめ細やかな面談や相談の機会の充実 ・生徒の支援に向けた情報共有の強化	・授業見学週間は設定できなかった。 ・常勤教員はほぼ全員が一人一台端末やICTを授業に活用するようになった。 ・コース枠を工夫し、可能な限り自由な学級編成を組めるように配慮した。 ・学期始めに面談週間を設定した ・打ち合わせ、職員会議等を通して生徒情報を共有できた ・生徒アンケートからは、服装や頭髮のルール・ベル席や授業マナーを守ることは90%以上の生徒が出来ていと自己評価をしています。	
【生徒指導】	・生徒アンケートの達成率90パーセント以上 生徒が、(服装・頭髮のルール・ベル席や授業のマナーを守る・敬語を正しく使う・日常的に挨拶を行う) ・遅刻の減少(体調不良や家庭事情など生徒の実情に合わせた指導)に取り組めます。	・生徒アンケートからは、服装や頭髮のルール・ベル席や授業マナーを守ることは90%以上の生徒が出来ていと自己評価をしています。	
【キャリア教育】	(1)「特別な支援を要する生徒」や「日本語指導が必要な生徒」への指導と進路実現 ・キャリア学習支援員やハローワークとの連携を密にして、支援体制を整える。 ・3年生では面接練習を中心に、個人のスキルがあがるよう、必要に応じて面談を行う。 ・卒業生の進路先と連携をとり、卒業後も引き続き支援を行う。 (2)自分の将来に価値を見出し、目標を持たせるとともに、課題に対し考え、行動できるようにする ・インターンシップの実施(2学年) ・キャリア教育にかかわる行事の実施(年間10回以上) (3)生徒が活躍できる場のさらなる創出	(1)・キャリア支援員との面談や診断テストの実施・ハローワークとの連携や情報交換などを行った ・全職員が協力して面接を4段階行った ・5月職場訪問・11月インターンシップ先の訪問・1月電話にて就労状況の確認をした (2)・2年生11/11～11/15まで5日間行った 1年8回・2年16回・3年17回 (3)各学年進路委員の設置	
【ふくし教育】	(1)福祉関係の資格・検定の取得促進(ふくし科) ・介護福祉士国家試験、合格100%(3年生介護福祉コース8人) ・介護職員初任者研修修了(2年生希望者)合格100% ・社会福祉・介護福祉検定1級(50%)、3級(40%)、4級(40%)合格 ・普通救命講習修了(2年生介護福祉コース7人)全員取得 (2)異校種や地域との交流を実施、ふくし科の魅力や福祉について伝える。 ・保々子ども園、保々小学校、保々中学校、特別支援学校の北勢さらら学園との交流を実施する。 ・ふくし科のHPとInstagramで魅力を発信する。 ・施設職員の協力を仰ぎ、施設で働く楽しさ、魅力を発信する。 (1)自らの体の健康のために適切な行動を取れる力を養う。	(1)介護福祉士国家試験、合格率100%(3年介護福祉コース8人)3年連続合格達成見込み ・介護職員初任者研修修了(2年生希望者)合格100% ・社会福祉・介護福祉検定1級(66.7%)、3級(75.0%)、4級(0%) ・普通救命講習修了(2年生介護福祉コース7人)全員取得 (2)出前授業や交流会をすべて実施した。 ・ふくし科のHPとInstagramで魅力を発信した。 ・施設職員の方に来校していただき、施設で働く楽しさ、魅力を発信していただいた。	
【心身の育成】			

	・定期健康診断の結果(所見あり)の配布(早期治療を促すため。) ・検診結果一覧の配布(三者懇談会で配布し、生徒・保護者に現状を認識させる。) ・自身の健康状態の把握(体調不良時やけが等の場合に、自分の現状を周りに発信する力を育てる。) (2) 自己肯定感を高められるよう、心の力を養う。 ・スクールカウンセラーによる教育相談の実施(37回予定。) ・悩み・不安のある生徒への働きかけ 保健室によく来室する生徒や欠席の多い生徒に対して継続的に観察・声かけを行い、学年団とも情報共有する。 (3) 「支援を要する生徒」を把握し、支援を行う。 ・心理検査を実施し、生徒に自身の強み・弱みを把握させる。(1年生) ・「支援を要する生徒」の情報共有の徹底 特別支援教育校内委員会の実施、保護者との連携を行う。	配布はできたが、精密検査の受診をするよう声かけをしてもなかなか徹底できない。 →できた。 →実施した。 →できた。 →実施した。 →できた。	
--	---	--	--

改善課題

・授業見学週間の設定 ・非常勤教員も含めたICT活用 ・生徒減に対応したクラス・コース編成および講座編成の工夫 ・生徒アンケートの結果より、「敬語を正しく使えているか、日常的に挨拶が出来ているか」という行動が充分ではない。教員からの挨拶や言葉かけも含めて来年度はさらに良くなるように目標を設定して取り組む必要がある。 ・進路行事について引き続き内容の精選を行う ・低学年から家庭での学習を定着させ、大学入試や就職試験に対応できるような学力を身に付けさせる ・特別支援が必要な生徒に対して、保護者の理解を得ることが非常に困難。教員側の認識と本人・保護者の認識にずれがあり、学校側が困っていることを理解してもらえないことが多い。 ・社会福祉・介護福祉検定の4級の受験者4人いたが指導が行き届かなかった。検定では内容が未学習でも出題されるため自主勉強をする機会をつくる必要がある。 ・介護職員初任者研修の補習が多く、試験実施日が計画通りにできなかった。事前に補習や試験日を伝えて、生徒たちが学ぶ楽しさを引き出せるよう工夫する必要がある。 ・ふくし科のHPの更新回数が減った。来年度からは毎月更新できるようにする。 ・ふくし科の行事が多すぎて、生徒たちや先生方に負担が大きかったため行事を厳選する必要がある。 ・生徒の各種検診の結果、精密検査の受診が必要と判断された生徒への受診案内を随時行い、1学期末の三者懇談会で受診したかどうかを保護者に確認できるようにする。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
【組織運営】	(1) 学年・分掌業務の連携、情報の共有化促進 ・業務精選(見直し)と主任会(月6)での生徒情報共有 ・SCやSSWへの適切な引継ぎで課題の早期発見・解決 ・委員会、学年会・分掌会、校内研修の簡素化 ・SSSや外部指導者等の積極的活用	・主任会は適宜実施も業務削減は進んでいない。 ・事案解決に協働できた。 ・県より指示の研修が多い。 ・教員負担軽減に効果大。	
【資質向上】	・授業力向上(人権文化あふれる学校づくり事業を受けて) ・コンプライアンス及び人権意識向上を図る取組	・一部教員資質向上成果。 ・計画的校内研修を実施。	

【広報活動】	・管理職による授業見学と対話 ・校外研修や「NET で研修」の積極的な受講推奨 ・在校生の様子、卒業後の姿を伝える取組の推進 ・授業公開に中学生(保護者)を呼びかけ、夏の福祉体験講座、アスリートコース体験会	・対話まで実施に及ばず。 ・研修記録確認。個人差あり。 ・地域行事への生徒参加。 ・アスリートコース体験会が実施できず。	
【地域連携】	・HP 等を通じた学校(生徒)情報発信 ・主にふくし科生徒による地域交流活動 ・インターンシップや介護実習等で地域事業所等と連携 ・地域の小中学校、特別支援学校との交流、出前授業	・2 月末で 54 回 HP 更新。 ・ふくし科や吹奏楽部参加。 ・例年通り緊密に実施。 ・ふくし科出前講座(中部中)(数値は 2 月末時点のもの)	
【働き方改革】	(1)総勤務時間の縮減に向けた取組 ・時間外労働時間:月平均15時間以下(昨年度比-10 時間) ・月 45 時間超の時間外労働者の延べ人数:0 人 ・年 360 時間超の時間外労働者の人数:0 人 ・休暇取得日数:10 日/年以上(全教職員) ・定時退校日:月1日以上設定・定時退校率 90%以上 ・会議時間:55 分以内の放課後会議の割合 80%以上 ・部活動休養日:計画通り休養日を実施できた部活動の割合 90%以上	・月平均 23.1 時間。不達成。 ・延べ 86 人。不達成。 ・12 人(2 月末)。不達成。 ・6 人不達成。 ・退校率 60%で不達成。 ・達成率 63%で不達成。 ・99%以上で達成。 (会議・部活動数値は 12 月末)	
改善課題			
・主任会で分掌の状況や各学年での生徒情報を微細な事についても共有する。 ・教員数が減少するなかで今以上に関係機関と適切に連携して生徒状況の課題解決が必要。 ・研修を落ち着いてできる時間的余裕が教員に十分でない。 ・地域や中学生に「ふくし科」「部活動」の他に「普通科」生徒のみの情報発信・行事参画を促す必要がある。 ・時間外労働の多い教員が固定化している。 ・周年行事に向けた体制作りを行う必要がある。			

6 学校関係者評価

明らかにになった改善課題と次への取組方向	・中学生は校則が厳しいとのイメージを持っている。卒業生を使って朝明高校の魅力を広くアピールする方策を考えてはどうか。 ・外部人材を活用し授業(教室)に入ってもらい、生徒の見立てをしてもらって特別支援委員会などで教員へ助言をいただく取り組みも考えられる。 ・地域の活動(よってこCAFE)と生徒の様子(ふくし科のInstagram)がつながっていることがわかるようにリンク設定して魅力発信できないか。
----------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・教員間同士で授業を見学し合うことができるような条件整備を行う。 ・正しい言葉遣いや挨拶が定着するための働きかけを教職員がさらに行う。 ・進学希望者に対する学習課題等を増やすことで学習習慣の定着を図れるようにする。 ・ふくし科生徒・教員への負担が大きい。地域参画行事への見直し・精選を図る。 ・外部講師を活用して生徒同士のいじめ防止への取組をさらに行う。
学校運営についての改善策	・定時退校日の各自設定と実現可否の結果を共有し把握する仕組みを設ける。 ・可能な限り職員会議の資料は PDF で前日までに共有フォルダに入れて職員が事前に見られるようにしておく。 ・可能な限り週休日を部活動休養日と設定することと活動時間の終了を早めるよう各顧問へ指示する。 ・学校関係者評価委員に生徒の様子を見ていただく機会をさらに増やす。